

「ヒナモロコ里親会」
会員各位 様

平成 19 年 1 月 28 日

「ヒナモロコ里親会」実行委員会
実行委員長

大石 敏

事務局

村上 政利

ヒナモロコ里親会
Hinamoroko Foster-parents Club (略称 HFC)

平成 18(2006)年度活動報告書

(平成 18 年 1 月 1 日 ~ 平成 18 年 12 月 30 日)



平成 18(2006)年 9 月 24 日の放流会 於；公園の池
撮影；村上 政利

新たな展開へ

いじめによる児童生徒の自殺や子どもが犠牲になる痛ましい事件や飲酒事故、高校の未履修問題、官製談合事件等々、片方で実感はないのに超いざなぎ景気の日本、時代の大きな転換期にあるような気がします。本年度はヒナモロコ里親会にとっても大きな転機となる年度になりました。農村自然再生活動高度化事業の指定を受け、ヒナモロコの保護増殖だけを目的としてきた活動の幅を少し拡大して、生息地の調査活動や地域住民の方（地権者）との協議会への参加、竹野小でのWSなどの活動をしてきました。耳縄北麓の農地基盤整備事業の計画では、ヒナモロコの唯一の生息場所である善院の水路が平成21年度の事業対象となっており、一刻の猶予もならない状況となっています。ヒナモロコ里親会としても具体的な対応が求められています。このような中、先日、「ヒナモロコの保全に向けて」と題して細谷和海近畿大学農学部教授の講演がありました。今後の活動を考える上での示唆的なものがたくさんありました。講演の一部を紹介したいと思います。

国有財産としてのヒナモロコの価値は、日本と大陸とのつながりを示す進化の生き証人として自然史的遺産価値、メダカの学校や鯉のぼり、ドジョウすくいなど日本人の生活と淡水魚の関わりは深く文化財としての価値、ヒナモロコが生息するような水田の効率は劣るが多面的機能が涵養される環境の指標的価値、そして人間が適度に干渉することで維持される自然の仕組みこそが環境教育の素材としての価値があると説明されました。さらには飼育等の関わりの中でアニマルセラピー的な癒しの効果もあります。野生動物の飼育などの関わりは社会問題化している「いじめ」に対しても方法によっては何らかの教育的価値を持つと思われれます。

ヒナモロコのように水田地帯に生息する野生生物にとって圃場整備の持つ悪い点として、多様な形の水田を整形して画一化し大規模化による稲作の効率化は生物の生息場所の多様性の喪失つまりは生物の多様性の軽視となること、用水のパイプライン化や小溝のU字溝化も生息場所の喪失となること、用排水の分離は生物の回遊と移動を阻害すること、冬期乾田化による越冬場所の喪失等が挙げられます。また農業水路の三面コンクリート化は回遊と移動の阻害、生息場所の消滅と共に周縁効果（エッジエフェクト）が喪失される。水田からの浸透水や陸上の小動物が隠れ入り込むような小孔がある曖昧な場所にこそ生物が集まり、大切である。ヒナモロコ保護の課題として十点示されました。ヒナモロコの生活環の解明が不十分で水路を扱うことは非常に危険である ミチゲーション五原則を遵守させること 買収も含めて平地の未整備田を残せるかどうか 回避をどこまで盛り込めるか ヒナモロコが生息する水田の所有者をどのように保障するか 保護体制の組織化と強化 一般市民の参画と県民の支援 外来魚対策 ヒナモロコを商標とする稲作の展開、ブランド米化やJAとの連携 水田をめぐる環境教育の実践。唯一の生息場所の農地整備が迫っている現在、対立するのではなく共存の方向性を見出すべく十分に協議し問題点を明らかにして県や国などに提起していくことが急務だということです。

農地整備をして水田の効率化や大規模化を図っても、自由貿易協定が締結された場合、日本農業の大部分は他国間との競争に勝てないことは明白です。生物多様性条約をもとに水田や里山の多面的機能を維持することを目的とする農業のあり方、環境保全を目的とする農政が、結果として日本農業を維持できる選択肢としてあることを示していく必要があります。もしかすると唯一の方法かも知れませんが、いずれにしても種の保存法適用も視野に入れながら、ヒナモロコ里親会として生息地の保全に向けて具体的に活動していく必要があります。

「ヒナモロコ里親会」実行委員長 大石 敏

《 目 次 》

巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 実行委員長 大石 敏

平成 18(2006)年度活動記録
平成 18(2006)年度活動実績

【資料】ヒナモロコ飼育奮戦記

ヒナモロコ通信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	第 47 号
	第 48 号
	第 49 号
	第 50 号
	第 51 号
	第 52 号
	第 53 号
	第 54 号
	第 55 号
	第 56 号
	第 57 号

ヒナモロコのこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
ヒナモロコのプロフィール
ヒナモロコ里親会の歩み
規 約
会員名簿(順不同)



於；久留米市田主丸町
事務局スナップ

編集；「ヒナモロコ里親会」実行委員会事務局

《平成 18(2006)年度活動実績》

(活動期間：平成 18 年 1 月 1 日～平成 18 年 12 月 30 日)

産卵・飼育等の増殖活動を通して増えたヒナモロコを、以下の地点に放流した。

平成 18(2006)年 9 月 24 日(日曜日)	放流場所	放流数
ヒナモロコ放流会(1 回目)	甲(池)	1500 尾
	乙(堤)	2000 尾
	丁(堀)	0 尾
	町(巨瀬川)	1000 尾
		4,500 尾
平成 18(2006)年 10 月 29 日(日曜日)		
ヒナモロコ放流会(2 回目)	甲(池)	500 尾
	乙(堤)	500 尾
	丙(水路)	0 尾
	丁(巨瀬川)	1500 尾
		2,500 尾
総合計		7,000 尾

*放流場所の具体的地名は伏せております。

*上記日時以外に、会員の都合で放流された数を、加算しています。



公園



田主丸町の「巨瀬川」

堤

平成 18(2006)年度の活動

本年度も、改めてスタートが切れました。会員各位のご努力、ご尽力の賜物と感謝に堪えません。どうぞ宜しく、この一年間をお願い申し上げます。

さて、第1回里親会（H18年）報告です。

・里親会での飼育・増殖・放流活動は一定の成果があがっている。しかし5ヶ所に放流しているが定着していない。発見された場所のみで増えている。ところがその場所が農地改革の対象地になっている。今後、地域の人との話し合い、シンポジウムを開き、理解を得る。

- ・ 発見された水路の調査
 - ・ 発見された水路を残す
 - ・ 発見された水路に近い多自然型水路を造る 等の検討をする必要がある。
 - ・ ヒナモロコ里親会員は39名になった。
 - ・ ヒナモロコの再配分が行われた。
- （写真） ・ 発見された水路の視察 ・ 浮羽町の 水路の調査

・ 新加入里親紹介

山崎惟義（やまさき これよし） 福岡大学工学部社会デザイン工学科 教授

渡辺亮一（わたなべ りょういち）福岡大学工学部社会デザイン工学科 講師

水圏システム研究室代表 はかたわん海援隊代表 ふくおか川の勉強会世話係

福岡県多自然型川づくり委員 等

最近では古代水路・裂田溝（さくたのうなで：那珂川町安德）での淡水魚捕獲、調査、放流、水路の調査を行っている。

以上 会員・井上章さんのレポートです

「ヒナモロコ里親会」第一回 平成 18(2006)年 2月 26日(日曜日)



39名の会員に対して、欠席の連絡を頂いた分を除いて、35ヶの水槽を用意した(下の左の写真)。善院の発見された水路から、200余匹を捕獲して、各水槽に「6尾」ずつ入れてゆき、会員各位の持参したヒナモロコを持参した数に応じて、1～3尾を順次35ヶの水槽に分けていっ

た。こうして最終的に、35ヶの水槽には、30～35尾のヒナモロコが入っていることになって、分配の余りは、右横のステンレス槽にいれ、まとめて田主丸中学校で飼育することになった。総数500尾以上。

さらに、次回3月には、二田の堤の水揚げを行い、自然界で育ったヒナモロコを捕獲して、参加会員に分配して、その数と氏名を記録します。



ヒナモロコ通信 第48号

平成18年 4月 17日

平成18(2006)年度の活動

4月の予定

第34回定例会合(通算開催)

4月23日(日曜)

午前 10:00～12:00

於；田主丸中学校

1.産卵等の報告会などなど・・・ 2.堤のせき止め

「ヒナモロコ里親会」第33回 平成18(2006)年3月26日(日曜日)

の堤の水抜きをしました。昨年の秋にも放流してきたヒナモロコが何匹捕獲できるか期待していましたが、2～3センチクラスのヒナモロコが数匹捕獲されただけでした。

どうしてでしょうか。一つは、水抜きの方法が悪かったために、出水口から離れた水だまりの泥に潜れこんで、でてこなかった。

または、大量のフナと水鳥に食べられてしまった。

さらには、堤での住み心地が悪くて、逃げ出してしまった(ヒナモロコの定着しない典型的なパターン)。



手前の緑と右の写真は「オオフサモ」。

堤には、泥が堆積していて、オオカナダモ、マツモが堤の水際、周囲にかなりの広さで繁茂している。ヒナモロコにとっては理想的な環境と思われるので、一旦干して、新たにヒナモロコを放流することになった。

本年の行事の予定。

本会員橋本哲男さん宅の水槽設備の見学。
海の中道海洋生態科学館の見学・・・とうとう

ヒナモロコ通信 第49号

平成 18年 5月 17日

平成 18(2006)年度の活動

5月の予定

第35回定例会合(通算開催)
5月28日(日曜) 午前 10:00~12:00
於; 田主丸中学校

産卵等の報告会などなど・・・

「ヒナモロコ里親会」第34回 平成 18(2006)年 4月 23日(日曜日)



ヒナモロコの産卵床として必要な水草を取りました。オオカナダモが最適です。

今まで、橋本先生を初めとして、プラスチック製の水草や、色々の代わりの産卵床(とこ)を試しましたが、一番良いのは、オオカナダモのようです。

その後で、前回水抜きをしましたた堤に、昨年秋に生まれて、親魚になり切れていない3センチ以下のヒナモロコを放流しました。約300尾。



水の出口を、ステンレスの板で再度フタをして、最低のラインまで水が溜まるようにしました。秋にいい結果ができることを願っています。

6月の予定

第36回定例会合(通算開催)

6月25日(日曜) 午前 10:00~12:00

於；田主丸中学校

産卵等の報告会などなど・・・

本年の行事の予定。

何とか実現させたいと思っています。

本会員橋本哲男さん宅の水槽設備の見学。

海の中道海洋生態科学館の見学・・・とうとう

6月25日(日曜) 午前 10:00 ~ から、
マリンワールド海の中道海洋生態科学館で里親会を開催します。

平成 18(2006)年度の活動

6月の予定 第36回定例会合(通算開催)
6月25日(日曜) 午前 10:00 ~ 12:00
於 ; 海の中道海洋生態科学館
マリンワールド



団体で入場しますので、駐車場(有料)に入って、
入場券売場の前に集合して下さい。

午前 10時、厳守でお願い申し上げます

遅刻その他のご連絡は、携帯 090-3603-7014 へお願いします。

遂に、念頭の目標の一つが実現しました。当会員・三宅基裕さん、マリンワールド・高田浩二館長のご厚意を受けて、魚の飼育の裏方を見せていただきます。特にヒナモロコを200匹近く産卵・飼育されていますので、その飼育方法など興味深いお話をさせていただきます。

後は、水族館内を自由に見て回っていただき、そのまま自然解散です。久留米からですと、九州自動車道から都市高速に入り、「香椎浜ランプ」であります。

《詳細は、別紙をご参照下さい》

7月の予定 第37回定例会合(通算開催)
7月17日(月曜) 午前 10:00 ~ 12:00
於 ; 旧田主丸役場裏手。

恒例 『水辺の教室』

子ども達と魚取り！！

久留米市からの「補助金」が、決定しました。

平成 18 年度文化財保護団体補助事業として、「ヒナモロコ里親会」に「45,000円」補助金ができることになりました。

本年の行事の予定。

本会員・橋本哲男さん宅の水槽設備の見学。

ヒナモロコ通信 第 51 号

平成 18 年 7 月 10 日

平成 18(2006)年度の活動

日にちが変更になりました(17日から 23日に)

7 月の予定 第 37 回定例会合(通算開催)

7 月 23 日(日曜)

午前 10:00 ~ 12:00

於 ; 旧田主丸町役場裏手

恒例 『水辺の教室』 子ども達と魚取り！！



昨年のスナップ写真

です。

海の中道海洋生態科学館・マリンワールドでの「ヒナモロコ里親会」

雨の中にも関わらず、多くの会員が、又家族連れで参加していただきました。

初めてのこの企画が成功裏に終わりましたことを喜んでいます。これもひとえに、高田浩二館長、三宅基裕さん他、スタッフの方々のご配慮の結果です。紙上を借りまして、御礼申し上げます。

絶対に見ることの出来ない、水族館の裏側!! 皆さんには、どのような勉強になったのでしょうか。きっとヒナモロコの飼育上のヒントが得られたに違いありません。

常時、下記の内容で開催されてますので、是非マリンワールドのヒナモロコを見に行ってみて下さい。様々な魚の生態を知ることは、ヒナモロコの飼育にきっと役立ちます。

久留米市からの「補助金」が、決定しました。

平成 18 年度文化財保護団体補助事業として、「ヒナモロコ里親会」に「45,000円」補助金ができることになりました。

ヒナモロコ通信 第 52 号

平成 18 年 7 月 10 日

平成 18(2006)年度の活動

日にちが変更になりました(23日から30日に)

7月の予定 第37回定例会合(通算開催) 変更しました

7月30日(日曜) 午前 10:00~12:00

於; 旧田主丸町役場裏手

恒例 『水辺の教室』 子ども達と魚取り!! (耳納塾主催)

【 重 要 】

「ヒナモロコ里親会」では、以前よりお話していましたが活動に対して、補助金が出ることになりました。その具体的活動内容は、下記の通りです。

- ・ 絶滅危惧 I A 類である「ヒナモロコ」が生息する田主丸町の農業用排水路の生態系の維持及び周辺環境の整備
- ・ 「ヒナモロコ」の保護・増殖
- ・ 筑後川中流域・巨瀬川、及び田主丸町周辺の水路などに生息する淡水魚等の調査
- ・ 地域農家・周辺住民に対する自然保護と農業などとの共生についての啓発活動

これらの活動を「ヒナモロコ里親会」定例会の後、(昼食は自己負担

で)午後から 2 時間程度行います。この参加者に対しては、ガソリン代・交通費として、若干のお支払いをさせていただくことになりました。
是非ふるってご参加下さい。

詳細は、別紙の通りです。

8月の予定 第 38 回定例会合(通算開催)
8月 27 日(日曜) 午前 10:00~12:00
於; 田主丸中学校

会員のヒナモロコ飼育状況報告と、魚類調査・・・etc

ヒナモロコ通信 第 53 号

平成 18年 8月 14日

平成 18(2006)年度の活動

8月の予定 第 38 回定例会合(通算開催) 変更しました
8月 27 日(日曜) 午前 10:00~12:00
於; 田主丸中学校

午後 1:00~3:00
ヒナモロコの分布調査とうとう……。下記の通りです。

9月の予定 第 39 回定例会合(通算開催)
9月 24 日(日曜) 午前 10:00~12:00
於; 田主丸中学校

第一回目のヒナモロコの放流を行います。

午後 1:00~3:00
ヒナモロコの分布調査とうとう……。別紙の通りです。

8月の「ヒナモロコ里親会」と水辺の教室

盛会の内に無事終了しました。ヒナモロコは獲れませんでした。



「子連れ・」
も参加
しています



「まずは
お母さんが
お手本を・
・・・」



ちょっと立ち話



約 40 名の参加者が、捕まえた魚たちを水槽の中に入れて、橋本先生の説明を熱心に聞いていました。



ヒナモロコ通信 第 54 号

平成 18 年 9 月 12 日

平成 18(2006)年度の活動

9 月の予定 第 39 回定例会合(通算開催)

9 月 24 日(日曜) 午前 10:00~12:00

於 ; 田主丸中学校

第一回目の放流です。出来るだけたくさんヒナモロコを持ってきて下さい。

午後 1:00~3:00

ヒナモロコの分布調査とうとう……。下記の通りです。

8月27日 「ヒナモロコの捕獲調査」 於；田主丸町善院水路、二田の堤



生息水路以外でヒナモロコを多数捕獲した。



二田の堤では、ヒナモロコの自然繁殖が顕著に確認され、上から見るだけで、ヒナモロコの魚影を確認できた。

9月4日 「水生生物観察会」竹野小学校5年生25名の参加。朝倉農林事務所農地計画課後援。



ヒナモロコは捕獲できなかったが、フナやハヤ以外にニホンバラタナゴ、カゼトゲタナゴ、シマドジョウなど貴重な魚も捕獲できた。

ヒナモロコ通信 第55号

平成18年 10月 15日

平成18(2006)年度の活動

第39回「ヒナモロコ里親会」第一回放流 合計約4500尾 を3つの場所に放流した。





市が管理する公園内の池と、二田の堤に放流した。公園の池は、たくさんのメダカがいるが、廻りが住宅地なので、家で飼育できなくなった金魚やフナを池に放流する人がある。しかし従来自然繁殖が確認されており、適当にアオモが繁殖していて、池の中に入って遊ぶ小学生を拒否しているのがとても良い。（左の写真）

二田の堤は、放流の時に持ち込まれた水草が、増殖していて、水鳥からの危険回避と、産卵床が確保され、ヒナモロコの自然増加に大いに役立っている。



巨瀬川への放流は、ヒナモロコ自らがその安住の水路を見つけだし、自然繁殖への道を歩むことを祈念して、行いました。

巨瀬川

9月24日 「ヒナモロコの捕獲調査」 於；田主丸町善院水路、西側の二水路。
従来全くいなかった水路で、多数のヒナモロコを発見、捕獲した。

【 田主丸町善院水路、西側の二水路の現況調査報告 】

- 1.以前はヒナモロコのいない水路である。
- 2.他魚種が少ない。(ギンプナ、ドジョウ、タカハヤ)
- 3.田んぼと水路とが、有機的に結びついていて、田んぼの中の水たまりにもヒナモロコがいた。
田んぼとのネットワーク。横水路がある。
- 4.土水路で、土管などの隠れ家がある。鳥からの攻撃を防ぎ、厳しい冬を越すことが出来る。
- 5.冬場、水が枯れない。
- 6.水路の独立性。水路に堰のような段差があって、巨瀬川から上ってくる魚種が少ない。

以上

平成 18(2006)年度の活動

11月の予定 第41回 臨時会合(通算開催)

11月26日(日曜) 午前 10:00~12:00

於；田主丸中学校 「本年最後の魚取りをします」

12月の予定 第42回 定例会合(通算開催)

第40回「ヒナモロコ里親会」第2回放流 合計約2500尾 を放流した。



巨瀬川の善院地区に放流しました。



放流の後で 竹野地区の 魚類調査を行った。

西側一帯の細流を含む水路に網を入れて、調査を行ったが、ヒナモロコは現生息水路を含む

竹野地区東部
一帯で捕獲
された。



現生息流域への
今までの放流に
一定の成果が
あったのではな
いかとの評価を

する事ができる と思う。



平成 18(2006)年 12月 10日 於；旧田主丸中央公民館 2階
「ヒナモロコの保全に向けての講演会」3名の先生に講演していただきました。



細谷 和海 (近畿大学農学部教授)
「ヒナモロコの保全に向けて」ヒナモロコ、水田の良さと問題、
ヒナモロコ保全の視点の提案)

高久 宏佑(近畿大学大学院農学研究科)
ヒナモロコの人工繁殖」



大原 健一(岐阜県河川環境研究所)
「希少淡水魚の保全戦略 - ウシモツゴを例に」



真剣に本音を述べて、
お互いの意見を出し合っ
大変有意義な講演と
シンポジウム
ワークショップ
でした。

ワークショップの風景



細谷先生の講演

ワークショップに聞き入る農家の方々

新年明けましておめでとうございます。
本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

毎年毎年、色々なことがあるものだとつくづく思います。とはいえ「ヒナモロコ里親会」の本来の目的「増殖・繁殖」を肅々と継続していかなければなりません。会員各位の限りないご支援のたまものです。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

以上

編集・発行 「ヒナモロコ里親会」実行委員会委員長
事務所；連絡事務等

大石 敏
村上 政利

〒 839-1233 福岡県久留米市田主丸町田主丸 1 2 0 4 - 5 0

《ヒナモロコのこと・・・》

ヒナモロコの成魚 雌



ヒナモロコの成魚 雌



(婚姻色の出た個体)

ヒナモロコの成魚 雄



(婚姻色の出た個体) 撮影；橋本 哲男

《ヒナモロコのプロフィール》

学名	<i>Aphyocypris chinensis</i> Günther
科・属	コイ科ハエジャコ亜科ヒナモロコ属
地方名	タバヤ、トンコスバヤ、メダカ、など
全長	6 ~ 7 cm程度
染色体数	2n = 48
分布	北部九州、国外では朝鮮半島、中国大陸
近似種	カワバタモロコ。オイカワ、カワムツの稚魚。モツゴなど
生息場所	流れの緩やかな小河川の淀みや細流、水路、浅い池など

《ヒナモロコの飼育、増殖について》

親魚（成魚）の飼育

1、飼育用水槽

親魚は60cm以上の水槽で飼育した方がよい。(20~30匹程度がよい。)

水槽が小さいと魚の数にもよるが、酸素欠乏を起こしやすい。また、運動不足から体型が悪くなったり、後天的な奇形を起こしやすい。

フィルター（濾過装置）

フィルターは必ず使用する。上部、底面、内部、外部フィルターのいずれでも可。エアレーションも必ず使用。

底面の砂

2～3 cm程度敷く。砂を敷くとバクテリアなどが発生し、水質が安定する。砂を敷かない場合は水質により注意する。

2、水槽設置場所

温度変化が少ない場所。室内、屋外いずれでも可。直射日光が当たらない間接光程度の窓際やベランダなどの明るいところ。あまり暗いと水草などの生育が悪くなる。暗い場合は水槽用蛍光灯を使用する。直射日光が当たると産卵しにくくなる傾向が見られる。

3、水温

ヒナモロコの親は季節的な温度の変化には比較的強い魚で、0度から35度程度まで耐えられる。しかし、適温は20～25度くらいと考えた方がよい。産卵もそのくらいの水温の時、一番活発である。

冬場、ヒーターは使用してもよいし、使用しなくてもよい。使用した場合、夏場と同じように餌を食べ、成育する。特に、稚魚はできるだけ使用した方がよい。使用しないと死んでしまう場合が多い。

4、餌

雑食性で人工配合飼料、ミジンコ、冷凍アカムシ、乾燥エビなど何でもよく食べる。1日1～2回程度。5分程度で食べてしまう量。やりすぎは水質の悪化につながる。

5、水換え

魚の数と餌の食べ残しによって違うが、1週間に1回程度はした方がよい。

水槽半分ずつ、水道水の汲み置きしたもの、井戸水などを使用。水道水を直接使う場合はカルキ抜き（テトラコントラコロラインなど）を使う。水換えによる水温の変化に注意する。（5度以内程度に抑える。）

6、水草

オオカナダモなどの水草を入れてもよい。川から取ってきた水草はヒルやヒドラなどが付着している場合が多いのでよく洗って使用する。産卵期に水草を入れておくとそのまま産卵する場合がある。

水草は光が足りないと次第に枯れていくので、水槽を明るい場所に設置するか、水槽用蛍光灯を使用する。

7、病気

ヒナモロコは比較的病気になりにくいですが、急激な水温や水質、環境の変化が起こった場合、病気になる場合がある。

かかりやすい病気

白点病、水カビ病、尾ぐされ病、寄生虫、酸素欠乏など

治療

病気の種類によって違うが、いずれの場合も水温、水質の安定をはかることが大事である。そして、治療薬などを使用する。

治療薬（商品名）

水カビ病・・・マラカイトグリーン、スーパーカットなど

尾ぐされ病・・・グリーンFゴールド顆粒など

寄生虫(白点病)・・・ニューグリーンFなど

寄生虫(イカリムシ症)・・・リフィッシュなど

参考資料（図書名）

アクアブックス 知っておきたい魚の病気と治療（日本動物薬品株式会社）

*魚類の病気と治療について、次回に特集を考えています。（編集部）

8、奇形

ヒナモロコは骨格、鱗、頭部、吻部の変形、鰓蓋の欠損、眼球の突出など奇形が出やすい。後天的にも骨格の変形、成長異常などが頻繁に見られる。

増殖

1、産卵時期

飼育下では3月～11月ぐらいまで。稀に水温が高い室内などでは12月にも産卵することがある。逆に、8月頃の30度を超えるような水温の高い時期には産卵しない。

最盛期は5月～7月頃

自然下でも3月、4月頃の春期、9月、10月頃の秋期にも産卵している。

2、産卵条件水温

15度～30度ぐらいまで（30度を超えると産卵しない）

20度～25度ぐらいが最適温度

3、産卵時間

夜明けから午前中にかけて、稀に夕方。（飼育下）

4、婚姻色

産卵期になると雄、雌とも幅2mmほどの縦縞がはっきりと出てくる。これを婚姻色という。特に雄は顕著になる。雌は腹部が膨れてくる。

5、増殖方法

セット

通常の飼育用水槽でも自然産卵するが、親魚の水槽から産卵用水槽に婚姻色の出た個体を移し産卵させる方が卵の回収がしやすい。雄、雌の比率は2：1，3：1程度。40cm程度の水槽で雄4匹に雌2匹、雄6匹に雌2匹程度。

産卵用水槽には水草を入れ、エアレーションをする。濾過器は使用しない。濾過器を使用すると、産卵した卵が吸い込まれる。砂も敷かない。砂を敷くと卵が発見しにくい。

産卵用の水草はオオカナダモ、ホテイアオイ等を使用し、多めに入れる。採集直後の水草はヒドラなどの発生が見られるので注意を要する。

産卵

天気の変化や水換えなどが刺激となり、産卵行動を始めることが多い。

婚姻色の出た数匹の雄が雌を盛んに追尾し始める。やがて、雄が雌の腹部をつつき始めると雌は水草の上で卵をばらまくように産卵する。受精もその時に同時に行われる。

卵の回収

産卵したばかりの卵は透明で約1mm前後と小さく発見しにくい。確認するためには、水草を手で取り上げよく見ること。または、水草を目の細かい網ですくい、

網の底に卵がついているかよく見ること。水草にも付着しているが、相当数底面にも落下しているため、底面が黒い水槽の方が発見しやすい。モノアラガイの卵や水の細かい泡等と間違えやすい。産卵が確認できたら、速やかに親魚を産卵用水槽から出す。もしくは、卵を別の容器に移す。そうしないと、親魚に卵を食べられてしまう。

産卵数

条件によって異なるが、だいたい200から400卵。水温が低かったり、条件が整っていない場合は産卵数が非常に少ない場合もある。

6、稚魚の飼育

稚魚用水槽

産卵した卵（卵の付着した水草）は別の水槽、容器に移すか、親魚を移した産卵用水槽をそのまま稚魚の飼育用水槽にする。容器は大きいバケツや衣装ケースなどを使用してもよい。

エアレーションのみ、濾過装置は使用しない。

孵化率

条件によって異なる。産卵した卵が殆ど孵化することもあるが、全く孵化しない場合もある。

孵化時間

15度・・・4～5日

20度・・・2～3日

22度・・・約48時間

27度・・・約24時間

29度・・・約18時間

仔魚

孵化したばかりの仔魚は約3mmで、鰓、眼などの諸器官が発達していない。水面や水草にぶらさがっている。水温によって違うが、2～3日すると自由遊泳を開始する。

仔魚の餌

泳ぎ始めた仔魚には細かい餌を与える。初期：ワムシ、ゾウリムシ、仔魚用配合飼料（クロマベビーフード、ひかりパピィ、テトラミンベビーフードなど）、固ゆで鶏卵など。しだいに：ミジンコ、アカムシ、ブラインシュリンプ、配合飼料などを1日1～2回程度与える。

未成魚

魚の数や成長の具合、水質に応じて水換えをしたり、飼育水槽を替える。水質の悪化は酸欠の原因となる。また、魚の数が多いと成長が遅い個体が出てくる。成長の差が非常に目立つ。

秋に産卵したものはヒーターを入れないと冬を越せない場合が多い。

約半年から1年で成魚になる。

ヒナモロコの卵(8 ~ 16 細胞)



ヒナモロコの稚魚(孵化直後)



《 規 約 》

- 1.名称 「ヒナモロコ里親会」略称を「里親会」とする。
英文 Hinamoroko Foster-parents Club (略称 HFC)
*実行委員会の決定により、英文呼称を規約第一条に追記。(平成 13.11.)
- 2.目的 ヒナモロコの飼育・繁殖・放流等の保護活動を行う。
ヒナモロコの飼育・繁殖・放流等を記録し書類等に編纂して残す。^{へんさん}
- 3.入会資格 ヒナモロコの飼育と増殖・放流等の活動に参加して、ボランティア精神を発揮できる個人又は団体。
一般社会人としての常識を有する個人又は社会的に認知された団体で、この里親会を物理的・精神的、又は金銭的に支援することが出来る個人又は団体。
- 4.人事 任期 1 年 再任、兼任可。
- | | | | |
|-------|-----|-------|-----------|
| 名 称 ; | 顧 問 | 実行委員長 | 実行委員 |
| | 書 記 | 会計監事 | 業務部(含む経理) |
- 5.職務の内容
- 顧問 ヒナモロコに関するアドバイス等々全般の助言。
- 実行委員長 対内・外向けの看板。
里親会議をスムーズに運営するために必要な一切を実行委員との合議で決定する。議長・講師・書記・会計監事を適時実行委員を含む会員の中から任命する。また別途必要に応じて役員を選任する。
- 実行委員 相互に分担して必要な任務に当たる。
- 業務部(含む経理) 会の経理を担当する。里親会毎に集計して、会計監事の印鑑を受けるものとする。
- 6.会費 単年度毎の会費 個人又は団体 ￥2,000 -
使用用途---一年間の通信費用その他

7. 活動 目的を達成するための一切の行動。
- 里親会の開催など 会員の募集
 - 広報通信誌の発行
 - 会を会たらしめるための一切の行動
 - 看板の作成 ゴム版と印鑑の作成
 - 会員証の発行
 - その他、会員の建議・討論・合議によって決定する

8. 懲罰規定 特になし。

《ヒナモロコ里親会の歩み》

注記；本資料は、(財)九州環境管理協会・野中繁孝氏からの資料(2005.8.28)を基にして加筆し、全体を耳納塾事務局にて編集したものです。

敬称略

- 氷河期 「ヒナモロコ」大陸から九州へ？
- 1937年 「ヒナモロコ」日本で初めて報告(森)「朝鮮博物学雑誌」
福岡市近くから採集(岡部先生)。
- 1948年(昭和23年) 「ヒナモロコ」の生息場所の報告(今井)
多々良川、那珂川、筑後川、宝満川の各水系、ヒナモロコ生息の確認。
- 1980年前後、福岡市の多々良川では絶滅したらしい(木村先生談)。
- 1982年 浮羽郡田主丸町片ノ瀬(現在は久留米市)の水路で5尾ほど採集される
(東海大・秋山氏)。

- 平成3年(1991) 環境庁が絶滅危惧種に指定。
- 1月 北野町(現在久留米市)で確認(渡辺)。
北野町の西鉄大堰駅南約1kmの用水路で3cmのヒナモロコ1尾採集される
(財)淡水魚保護協会)。
- 10月 田主丸町巨瀬川北側の古川水系で確認(橋本)
この記録以降生息が確認できなくなった。

平成4年(1992)
耳納塾をはじめとするボランティアの活動として、「ヒナモロコ」探索の開始。

平成5年(1993)
5.22 木村清朗・九州大学教授が、田主丸町中央公民館で
「河川環境と川魚」と題して講演。ヒナモロコは絶滅危惧種になっているが、

町内を探せば見つかる可能性がある」と話す。

平成 6 年(1994)

- 11.19 シンポジウム「ヒナモロコにつぶやき」開催
主催；耳納塾(西村、高山) (田主丸中央公民館)
講師は木村清朗先生(九大農学部教授・当時)。「筑後川の淡水魚類」と題して講演。
(財)九環協が繁殖・飼育中のヒナモロコ 10 数尾を福岡市から借用展示
(再発見へ!)。
講演終了後、展示魚を見た竹野小学校の児童・先生から教室で飼育している
ことをしらせ、これが発見につながる。
- 11.24 田主丸町巨瀬川南側の水路で確認。
橋本先生が竹野小学校に出向き、飼育中の魚がヒナモロコであることを確認。
発見された田主丸町善院の水路で 26 尾を捕獲(内山)し、橋本先生に提供。
- 11.26 木村先生、耳納塾、(財)九環協が竹野小学校を訪れ、
飼育中の約 30 尾がヒナモロコであることを再確認。
- 11.29 木村先生、耳納塾、(財)九環協が発見された水路の現状を見て、
絶滅の危険性が大きいと判断し、当時の水路の状況は、水がほとんど流れて
おらず、所々に水溜まりが残っている程度で、柔らかい底土には水鳥の足跡が
いっぱい付いていた その場で可能な限り捕獲(50 数尾)。

平成 7 年(1995)

- 2.10 生息地水路の多自然型工法での改修を決定。
(ミサ&ヒナモロコ倶楽部、井上ほか善院地権者)
- 5.24 ヒナモロコプロジェクト第一回会合 愛称を「ヒナモロコ救助隊」と決定。
(井、岩佐、竹上、日野、馬田、石橋、川崎、丸林、有村ほか)
- 6.22 町指定天然記念物として告示(現在は久留米市の天然記念物)
(田主丸町 右田町長、田主丸町教育委員会 山下教育長)
- 7.20 竹野小学校のヒナモロコ産卵孵化を確認(繁殖開始)。
(竹野小学校・古賀校長、袋野教諭、小学校児童、PTA の皆さん)
竹野小学校で 1 回産卵させ、30 ~ 40 尾の稚魚を得る。
耳納塾会員 2 人が、延べ 10 回産卵させ、約 400 個体の稚魚を得る。
(財)九環協が 20 個体を用いて、個体を識別しながら 16 回のペアリングで
約 2,000 個体の稚魚を得る(協会の公益事業として取り組む)。
- 12.09 耳納塾主催シンポジウム「ヒナモロコにつぶやき」第二回

平成 8 年(1996)

- 4.19 町と(財)九州環境管理協会との間で、増殖事業委託契約締結(一回目)2 年間。
この時耳納塾が飼育管理中の 15 尾を協会に持ち込む(この年はオス不足で
あったが、13 回のペアリングで約 2,000 尾の稚魚を得る (財)九環協・野中氏)
- 4.26 乙堤へ稚魚放流(約 1000 尾)
- 5.07 田主丸町立小・中学校校長会にヒナモロコ飼育を依頼
- 6.20 ヒナモロコ放流祭

平成 9 年(1997)

- 4.1 町と(財)九州環境管理協会との間で、増殖事業委託契約締結(二回目)。
- 12.14 耳納塾主催シンポジウム「ヒナモロコのつばやき」
里親方式によるヒナモロコの保護活動を立案(高山)。

平成 10 年(1998)

- 3.22 第一回ヒナモロコ里親任命式(耳納塾主催・林、高山)
(田主丸町教育委員会 山下教育長)
ボランティアによる本格的増殖活動の開始。第一回里親会員・約 30 名。
- 9.13 ヒナモロコ放流会(3 保存地区に放流)
- 10.18 第一回ヒナモロコ保全対策委員会の発足(2000 年までの 3 年間)
(社)日本水産資源保護協会の委託事業。(木村委員長、金子)
田主丸町～北野町～大刀洗町～小郡市～三橋町～神埼町～鳥栖市～甘木市～
久留米市～筑後市～朝倉町～吉井町など、ヒナモロコが生息する可能性のある
水域を採集調査。
【最初に発見された水路流入点の巨勢川と放流した溜池を除き採集できず】
この調査の他、委員会ではヒナモロコの繁殖・放流、卵発生の記載も行う。

- 11.15 乙の堤にてヒナモロコ放流

平成 11 年(1999)

- 3.14 第二回ヒナモロコ里親任命式
- 6.13 フォーハートクラブ社会貢献団体選考委員会から表彰。
- 9.19 ヒナモロコ放流会。 第二回ヒナモロコ保全対策委員会開催。

平成 12 年(2000)

- 3.20 第三回ヒナモロコ里親任命式
- 7.23 第三回ヒナモロコ保全対策委員会(終了)
- 9.23 ヒナモロコの放流(1 回目)を伴い、グランドワーク協会と
(財)日本グランドワーク協会(福岡市)の参加を得て、日英ヒナモロコ交流会として
開催。イギリス人親子 24 名参加。
- 10.22 ヒナモロコ放流会(2 回目)

平成 13 年(2001)

- 1.21 「ヒナモロコ里親」の会を耳納塾の後援を得て、分離独立することを決定。
- 2.18 「ヒナモロコ里親会」の設立(代表;大石委員長)。
設立参加会員・約 40 名。(里親会通信の発行。規約の制定等・・・)
- 3.上旬 福岡県レッドデータブック 2001 にて絶滅危惧種指定。
- 3.20 第四回ヒナモロコ里親任命式 於;田主丸中学校 主催;ヒナモロコ里親会
(田主丸町町長 馬田 博、教育委員会委員長 古賀忠義)
- 9.16 ヒナモロコ放流場所の確保のために、甲の池を整備し(1 回目)、
ヒナモロコを放流。
- 9.23 ヒナモロコ放流会(1 回目)
- 10.21 ヒナモロコ放流会(2 回目)。 甲の池を整備(2 回目)。

平成 14 年(2002)

- 3.10 平成 13(2001)年度活動報告書の編集・製作・発行。
第五回ヒナモロコ里親任命式
- 8.18 水辺の教室 午前 10:00~
- 8.27 (社)日本動物園水族館協会より平成 14 年度野生動物保護募金の助成団体に
決定。(計 3 回、2004 年度まで)
海の中道海洋生態科学館からの推薦を受けて、受賞することになった。
- 9.15 ヒナモロコ放流会(1 回目)
- 10.20 ヒナモロコ放流会(2 回目)
- 11.10 中学生の水辺の教室(浮羽0-列-クラブ の後援)

平成 15 年(2003)

- 3.23 平成 14(2002)年度活動報告書の編集・製作・発行。
第六回ヒナモロコ里親任命式
- 8.26 (社)日本動物園水族館協会より (第 2 回目)
平成 15 年度野生動物保護募金の助成団体に決定。
- 9.21 ヒナモロコ放流会(1 回目)。 水辺の教室 午前 10:00~ 開催。
- 10.19 ヒナモロコ放流会(2 回目)。

平成 16 年(2004)

- 3.21 平成 15(2003)年度活動報告書の編集・製作・発行。
第七回ヒナモロコ里親任命式
- 8.26 (社)日本動物園水族館協会より (第 3 回目)
平成 16 年度野生動物保護募金の助成団体に決定。
水辺の教室 午前 10:00~ 開催。
- 9.19 ヒナモロコ放流会(1 回目)
- 10.17 ヒナモロコ放流会(2 回目)

平成 17 年(2005)

- 2.27 平成 16(2004)年度活動報告書の編集・製作・発行。
第八回ヒナモロコ里親任命式
- 3.27 「ヒナモロコ里親会」定例集会
会員が飼育しているヒナモロコの親魚を持ち寄り、相互交換して、
春の産卵のための準備をする。
- 7.17 水辺の教室 午前 10:00~ (耳納塾主催) に参加。
(小、中学生も参加して、大人と一緒に川に入り、網で魚取りをする行事)
- 8.28 講演会;そよかぜホール 高山賢治氏、野中繁孝氏
- 9.25 第一回放流会
- 10.23 第二回放流会

平成 18 年(2006)

- 通信にて、詳細記述
第 9 回ヒナモロコ里親任命式

(現在に至る)

編集；「ヒナモロコ里親会」実行委員会

実行委員長	大石 敏
顧問	木村清朗
実行委員	橋本哲男
	村下満寿雄
	藤崎寿人
	橋本芳彦
業務・会計	村上政利
会計監査	田代義隆
書記	山川英毅

事務所；連絡事務等 村上政利

〒 839-1233 福岡県久留米市田主丸町田主丸 1 2 0 4 - 5 0

電話 09437-4-4052

Fax 09437-4-4051

mail; hinamoroko@titanist.com

ホームページ <http://www.geocities.jp/titanist2003/index.html>

発行； 平成 19(2007)年 1月 28日

